

「得意とするのが特急含めた納期対応力。治具設計等で効率化追求」

ワークの大きさは10ミリ角から500ミリ角までとマチマチ 治具設計等で工夫も



スーパーG1チャックのロボドリル装着が、効用を生み出すきっかけとなった。

「エンドミルによる粗加工で、
切削条件を他社比2倍にしても
要求精度をクリアした事例も」

来年早々にロボドリルを新たに導入
「スーパーG1チャックを
30本追加発注へ」

は、およそ10年前で、ロボドリルの新規追加導入時に円テーブルとソーリング(グリーンG1チャック)をセットで採用したことに始まる。

「従来のソーリングに比べ、加工音が静かになったのが今でも印象的。今後はとも効率化で」と振り返りながら「設備の更新、廃棄を繰り返す」と意欲を示した。

「加工音が静かになったのが印象的」

1981年に法人化され、切削技術で差別化しながら、創業50年を超えている中山製作所は、現在、空圧機器関

連部品が8割と大半を占めており、残りは金型用部品や試作品などを受注している。

今回の訪問先はマシ



マシニングチーム集合。全員がスーパーG1チャックを手にしてアピールする。

「被削材で見れば、鉄、アルミ、ステンレスがメイン。受注内容は、2カ月先までは把握できるが、得意とするのが特急含めた納期対応力。

治具設計で工夫を凝らす。空圧機器関連部品の製造で、対応頂いたのは、吉田課長と藤原主任。空圧機器関連部品の受注も、10ミリ角から500ミリ角と大きさはマチマチで、1ロットでは個から数百個だと言った。

「加工工程を組立てる時に、工程集約のみではなく、あえて工程分散を行う事も視野に入れて検討し、状況に応じて、ハイテクローテックを使い分ける事で、お客様の様々なニーズに応えられる体制を整えている。また、今後さらに生産体制を強化していくために、人材の多能工化を目指していく」という。

「ただ、コロナ禍の3年間は、人手不足のなか、感染者が出て、納期対応では四苦八苦。受注先の協力を仰ぎながら、何とか仕事量を確保した。顧客の配慮には感謝している」と言う。

設備の点を付け加えるなら、来年早々にはロボドリルが追加導入される。

「仕事量の拡大に備え、増強する予定で、その際、スーパーG1チャックを30本発注する計画。今後とも効率化で」と意欲を示した。

空圧機器関連部品が大半を占める中山製作所(埼玉・越谷市)
ユキワ精工ソーリングユーザー訪問 吉田製造一部課長、藤原主任に聞く

ソーリングシステム
スーパーG1チャック



ツールホルダーを
変えると、
生産性が向上する



お客様から
ありがとう
と言っていただけ
ツールホルダー

YUKIWA

ユキワ精工株式会社

スーパーG1チャック

検索

<https://www.yukiwa.co.jp/>

Precision Grade No.1
G1
Super G1 Chuck

本社・工場/〒947-0052 新潟県小千谷市千谷2600番地1 TEL.0258-81-1111(代) FAX.0258-81-1112
営業所/東京、名古屋、大阪、中国(上海)、U.S.A.